

# Journal of ISOM Japan

国際東洋医学会日本支部会誌

## ご挨拶

国際東洋医学会日本支部長、福井県済生会病院内科部長 元雄 良治

皆さん、こんにちは！国際東洋医学会（International Society of Oriental Medicine: ISOM）は原則2年ごとの学術大会（International Congress of Oriental Medicine: ICOM）を開催してきました。2025年8月30-31日に第21回ICOMが台湾・台北で開催されます。ぜひ多くのご参加をお願いいたします。その2年後、2027年6月には、名古屋国際会議場にて、第22回ICOMが第77回日本東洋医学会学術総会と同時開催されます。本邦と海外からの参加者が加わり、大きな学術的な交流になることを期待します。



ISOM日本支部（Japan Chapter）ではニューズレターを発刊し、会員の皆さんに東洋医学の最新の情報をご提供したいと考えています。内容として各会員の得意分野の話題を提供して頂く「東洋医学の最新トピックス」のコーナー、各会員の所属する医療機関や地域取り組んでいること、「学会便り」として、国内外の伝統医学（漢方・鍼灸）の学会はもちろん、伝統医学以外の学会にて、漢方・鍼灸が取り上げられているセッションの情報共有を行いたいと思います。皆さんが参加される学会の最新情報のご提供をお待ちしています。

2025年はISOM設立50周年の年になります。世界最古の伝統医学の学会としての意義を再認識致します。これまでにISOMの活動に貢献された先人の歩みを知ることも、未来のISOMの姿を考える上に重要です。ISOMにはさまざまな課題はありますが、東洋医学を愛し、各々の立場で日々実践している仲間として、今後ともよろしく願いいたします。

なお、最後になりますが、コロナ禍のためこの2年間活動休止しておりましたこととお詫び致します。ISOM日本支部は、会費収入によって運営されております。会費のご納入とともに先生のお知り合いの方にISOM入会のお勧めを何卒お願い申し上げます。

## 第37～40回国際東洋医学会理事会報告

国際東洋医学会日本支部事務局長、名古屋市立大学大学院薬学研究科生薬学分野 牧野 利明  
2022年5月第37回国際東洋医学会理事会は、オンラインで開催されました。台湾から事務局長として、鄭鴻強 Huang Chiang Chung 先生が着任され、また学会ホームページ <http://www.isom.or.kr> がリニューアルされたことが報告されました。第20回国際東洋医学会学術総会は、COVID19の影響により2023年に再延期となりました。

2022年3月日本支部理事会では、山下仁先生、斉藤宗則先生が勇退され、後任として関西医療大学の深澤洋滋先生が新たに理事として加わりました。

2022年12月国際東洋医学会理事会にて、第20回国際東洋医学会学術総会(2023年9月15-17日)を韓国・ソウルで現地開催されることが決定しました。その後、2023年4月に入ってから韓国より、日本からの講演者の照会依頼があったため、一般演題の募集が始まったのが直近の5月からとなってしまいました。メールアドレスを事務局に登録していただいている会員の方のみへの情報提供となり、十分なアナウンスが出来ませんでした。謹んでお詫び申し上げます。

2023年度日本支部理事会にて、星野卓之先生、高山真先生、貝沼茂三郎先生、山崎武俊先生の4名をソウルへ派遣することを決定しました。

2023年9月第39回国際東洋医学会理事会にて、規約改定と、次期理事長として台湾中医臨床医学会会長・義守大学教授の陳旺全 Wang Chuan Chen 先生が着任されることが決まりました。

2023年12月第40回国際東洋医学会理事会では、崔昇勳理事長より退任の挨拶を頂戴し、第21回国際東洋医学会学術総会(2025年8月30-31日)が台湾・台北市で開催されることが決まりました。また、津谷喜一郎先生、秋葉哲生先生へ国際東洋医学会からアドバイザーの称号が贈られました。

2024年度日本支部理事会は、新たに日本支部名誉会員の称号を作るため、規約改定を行いました。大山雅義先生、永井良樹先生、津谷喜一郎先生が理事から、小根山隆祥先生、安井廣迪先生が監事からそれぞれ勇退され、永井良樹先生、山下仁先生に名誉会員となっていただきました。新しい理事として、三谷和男先生(日本東洋医学会会長)、室賀一宏先生(オペラシテイクリニック)、野上達也先生(東海大学医学部漢方医学准教授)、和辻直先生(明治国際医療大学、伝統鍼灸学会会長)をお迎えし、理事を勇退された津谷先生と永井先生に監事として残っていただくことになりました。また、日本支部としての活動を再開することとしました。

## ICOM 体験記

洛和会音羽リハビリテーション病院 内科 山崎 武俊

元雄良治先生よりご推薦をいただき、ICOM2023で漢方エキス製剤セッションでの発表の機会をいただきました。循環器内科医として米国心臓病学会(ACC)でポスター発表をして以来、20年ぶりの海外での国際学会発表であり、口演は初体験でした。私は英語が苦手ですが、三谷和男会長(日本東洋医学会)より「関西のために頑張ってください。」とエールを送られ、覚悟を決めました。DeepLなどの優秀な翻訳アプリの助けをかり、学会事務局との英語でのメールのやりとり、演者履歴、抄録、スライド作成を行いました。また毎日、通勤中の車内で英会話 YouTube を聞きヒアリング、スピーキング力を鍛えました。



あっという間に学会当日となり、仁川国際空港に降り立った私は、ハンゲルが全く読めず戸惑いましたが、ISOMの担当者が送迎をしてくださり助かりました。会場では Welcoming Dinner で歓迎を受け、隣の台湾の何紹彰先生が気さくに話しかけてくれました。開催場所は韓国の代表的な大学であるソウル国

際大学であり、このような場所で東洋医学の学会を開催できることをうらやましく思いました。会場の Global Education Center for Engineers では韓国の学生が、英語で活発に議論していました。日本からの能瀬逸記さん、迫田凌太さん（名古屋市立大学大学院）も素晴らしいポスター発表を行っており、私も負けずに頑張ろうと気合いが入りました。「Kampo Medicine is Effective for Palpitation」と題し、動悸に関し発表しました。西洋医学で診断のつかない動悸に対し、漢方薬は絶大な効果を発揮します。拙い英語発表にもかかわらず、多数の質問をいただき、座長の牧野利明先生のアシストもあり、良いディスカッションを行えました。発表後の Gala Dinner では、韓流アイドルのコンサートを楽しみました。

国際発表は緊張の連続でしたが、私にとって貴重な体験となりました。漢方を発展させるため、優秀な若手に積極的に国際学会に出席してもらい、漢方の魅力をアピールしてもらうことは大切です。次世代に活躍の場を提供するため、これからも ISOM 活動に協力していきたいと思えます。

最後になりましたが、第 74 回日本東洋医学会学術総会には国内のみならず、海外からも多くの先生方にご参加いただきました。準備委員長として厚く御礼申し上げます。

## 国際東洋医学会理事就任挨拶及び ICOM 体験記

東北大学大学院医学系研究科 漢方・統合医療学共同研究講座 特命教授 高山 真

2020 年度から国際理事となりました、東北大学病院の高山真です。国際理事就任のご挨拶が遅れましたことを深くお詫び申し上げますとともに、伝統ある ISOM の理事に選出していただき光栄に感じております。また、日頃から ISOM 活動にご協力、ご参加をいただきまして、心から感謝申し上げます。ISOM 会員の皆様におかれましては、2019 年 12 月 1 日に仙台で開催された、人参養栄湯シンポジウムでもお集まりいただき、ありがとうございました。補剤の有用性をあらためて知るとても良いシンポジウムとなり、より人参養栄湯の有効利用が広がったものと感じております。COVID-19 による制限下では開催されなかった ICOM も、2023 年に韓国ソウルにおいて対面形式で開催されました。

現在私は、日本東洋医学会では学会副会長、東北支部支部長、Traditional and Kampo Medicine の Editor in Chiefなどを担当しております。WHO ICD-11 対応、ISO 対応など、国際対応も引き続き必要であり、微力ながら台湾、韓国と日本の関係を大切に進めてまいります。

2023 年 9 月韓国ソウル大学で開催された ICOM2023 に国際理事として参加しました。Keynote Speech、COVID-19 セッション、Integrative Medicine Treatment の座長と複数のお役目をいただき、とても充実した交流を行うことができました。



Keynote Speech では、超高齢化社会となった日本の現状、日本老年学会の安全な薬物療法ガイドラインの紹介、伝統医薬品のランダム化比較試験の紹介をしながら、老年症候群における活用についてお話ししました。韓国、台湾の先生方より、老年症候群における伝統医薬品のレビューとしてとてもまとまっており、わかりやすかったと高評価をいただきました。



COVID-19 セッションでは、日本東洋医学会主導の COVID-19 に関する急性期治療における漢方薬の効果に関する臨床研究の結果報告、行政と連携した COVID-19 感染制御対応、後遺症への漢方薬の応用などについてお話ししました。沢山の質問、コメントをいただき国際的にも注目されていることを実感してきました。



Integrative Medicine session では座長を務め、韓国、オーストラリアから計 4 名の先生よりプレゼンしていただきました。各国の伝統医薬品の活用や研究を知る貴重な経験となりました。

## 国際東洋医学会新理事からのご挨拶

関西医療大学 教授 深澤 洋滋

森ノ宮医療大学の山下仁先生からバトンを受け継ぎ、2022 年から理事を、今年度からは鍼灸担当の国際理事を拝命いたしました関西医療大学の深澤でございます。ご挨拶が大変遅れましたことを謹んでお詫び申し上げますとともに、伝統のある国際東洋医学会の一員として、これまで学会を支えてこられた著明な先生方とご一緒させていただける機会をいただきましたことに深謝申し上げます。日本における鍼灸治療を取り巻く環境は、韓国や台湾とは異なるものではございますが、国際東洋医学会の活動を通じまして、わずかながらでも学会の発展に寄与できますよう、また鍼灸治療への理解を深めていただけますよう、精進して参りますので、先生方のご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



略歴:University of South Florida 卒業、関西鍼灸短期大学専攻科修了。鍼灸師・博士(医学)。関西医療大学保健医療学部教授、関西医療大学大学院保健医療学研究科教授、和歌山県立医科大学非常勤講師、全日本鍼灸学会常務理事・国際部長、World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies 10<sup>th</sup> Executive Committee.

## 国際東洋医学会理事長からのご挨拶

国際東洋医学会理事長、中華民国中醫師公會全國聯合會理事長、義守大學教授 陳 旺全

Traditional Oriental medicine, honed over thousands of years, is now demonstrating its robust soft power to the world, continually renewing itself and bringing health to humanity. Centered around the core concepts of "precision medicine" and "preventive medicine," it has successfully treated genetic diseases and challenging chronic illnesses through countless arduous battles. For instance, COVID-19, which has claimed millions of lives worldwide and continues to wreak havoc with its long-COVID aftereffects, has found effective solutions within Oriental medicine. This clearly shows that Oriental medicine can not only prevent common, prevalent, chronic, and modern diseases but also empower the human body with sufficient positive energy to cure various acute and severe conditions.



Oriental medicine not only eliminates pathogens but also prioritizes enhancing the body's natural recuperative abilities. By leveraging the body's own immune system, it effectively controls the number of pathogens and inhibits their replication. Mastering the essence of Oriental medicine's principle of "supporting the body's vital energy while dispelling pathogenic factors" can boost the body's immunity, preventing any pathogens from dominating the body.

In the competitive global medical environment, Oriental medicine must address practical issues such as talent, education, language, and research. Future development strategies should focus on building an international exchange platform for Oriental medicine, cultivating an international team of Oriental medicine experts, and enhancing its discourse capabilities within the global health system. This would enable governments and people of different countries to understand the correct theories of Oriental medicine in the most comprehensible manner, thereby accurately showcasing the beauty of Oriental medicine.

Looking ahead, Oriental medicine should further strengthen its collaboration with the World Health Organization, the International Organization for Standardization, and even the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. Additionally, it should actively integrate with international AI technology organizations for research.

We are immensely grateful for the strong support of the current board members of the Oriental Medicine Association, as well as the joint efforts of the Vice Presidents from Japan and Korea. Let us courageously move forward towards our ideals and goals, undeterred by obstacles and setbacks along the way, and continue to selflessly and wholeheartedly dedicate ourselves, so that we can reach a brighter future. Thank you.

## 第 2 1 回国際東洋医学会学術総会のお知らせ

次回の国際東洋医学会学術総会の案内が台湾支部から届きました。2025年8月30日～9月1日に、国立台北大学病院・国際コンベンションセンターで開催されます。

詳細は不明ですが、以下にあるような内容がアナウンスされていますので、会員の皆様、予定を空けておいていただけましたら幸いです。

いずれ開設されるはずの Web ページのチェックをお願いいたします。

Directed by  Ministry of Health and Welfare Organized by  Taiwan Chinese Medical Association (TCMA)



**ICOM 21<sup>st</sup>**

The 21<sup>st</sup> International Congress  
of Oriental Medicine

Traditional Medicine

Traditional Medicine  
from Evidence-based to Integrative Medicine

Date **2025.8.30 (Sat) ~ 9.1 (Mon)**

Venue National Taiwan University Hospital  
International Convention Center



## ICOM 21<sup>st</sup> 会議邀稿領域内容

01. 伝統医学の多重歴史と文化発展 | 伝統医学の多様な歴史と文化の発展
02. 伝統医学在世界的教育と臨床訓練 | 世界における伝統医学の教育と臨床訓練
03. 針灸医学の臨床成果と革新 | 鍼灸医学の臨床成果とイノベーション
04. 中草薬の臨床効果と未来の展望 | 中草薬(漢方薬)の臨床効果と将来展望
05. 推拿按摩医学の臨床効果と先端技術 | 推拿按摩医学の臨床効果と先端技術
06. 伝統医学と現代医学合作治療成果 | 伝統医学と現代医学の統合による治療成果
07. 伝統医学對傳染疾病及急難重症預防及治療 | 感染症および急性重症疾患に対する伝統医学の予防と治療
08. 養生醫學推廣之方法與挑戰 | 予防医学の普及に向けた取組について
09. 伝統医学結合現代科技設備檢測與治療之應用 | 伝統医学と現代科学の融合による技術検査や治療への応用
10. 伝統医学抗衰老和護理老年人的應用 | 伝統医学における予防と高齢者ケアへの応用
11. 伝統医学對偏鄉地區照顧及居家醫療成果與未來挑戰 | 伝統医学における過疎地の地域医療および在宅医療の成果と課題
12. 傳統中藥製劑及現代化中藥製劑技術研發 | 傳統生藥製劑から現代的な生藥製劑研究開發の展開
13. 傳統醫學在植物學、植物化學、藥理學和臨床研究：多學科研究方法 | 伝統医学における植物学・植物化学・薬理学・臨床学等の研究：多分野研究領域
14. 傳統藥物藥典研修：標準化、製藥化、工業化及全球化 | 傳統藥物藥典研修について：標準化、製造化、産業化およびグローバル化
15. 傳統醫學及藥學：ICD-11 傳統醫學編碼、數位健康、人工智慧和資料庫開發 | 伝統医学とおよび薬学：ICD-11 伝統医学分類、デジタルヘルス、人工知能、データベースの開発
16. 健保給付、醫學倫理、和衛生政策 | 健康保険給付、医学倫理、労働衛生対策
17. 其他相關主題 | その他の関連テーマ

## 編集後記

この号から編集・発行を担当する広島大学病院漢方診療センターの小川恵子と河原章浩です。小暑も近づきましたが、気候に負けず、東洋医学の熱い話題をお届けします。

本誌では、最新的话题を提供できるように、ご意見等ございましたら、メールにてご連絡ください。

Journal of ISOM Japan 2024 No. 1

発行日 2024年7月1日

編集者 ニュースレター編集委員会

発行者 河原章浩、小川恵子

発行所 国際東洋医学会日本支部 (ISOM Japan)

## 国際東洋医学会日本支部

### ISOM Japan

名古屋市瑞穂区田辺通3-1

名古屋市立大学薬学部生薬学分野内

TEL&FAX 052-836-3416

E-mail: isomjapan@gmail.com

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>